

1. 件名：東京電力福島第一原子力発電所敷地南側の地形に関する面談
2. 日時：令和4年9月20日（火）13時00分～13時35分
3. 場所：原子力規制庁 6階会議室
4. 出席者：  
原子力規制庁  
原子力規制部  
東京電力福島第一原子力発電所事故対策室  
竹内室長、正岡管理官補佐、木原室長補佐、佐藤管理官補佐  
地震・津波審査部門  
野田上席安全審査官  
東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー  
プロジェクトマネジメント室 1名（WEBによる出席）  
福島第一原子力発電所 4名（WEBによる出席）

5. 要旨：

- 原子力規制庁から、8月23日の面談において東京電力ホールディングス株式会社（以下「東京電力」という。）から提出された資料、昨年10月11日に開催した第94回特定原子力施設監視・評価検討会資料3-2及び国土地理院の地図（東京電力福島第一原子力発電所付近のアナグリフ（グレー））等を踏まえ、以下の2点について、東京電力の見解を示すよう求めた。
  - （1）福島第一原子力発電所敷地南側の地すべり地形の可能性
    - 8月23日の面談資料のボーリング柱状図14箇所のうち約半数の箇所で段丘堆積物直下にN値が大きく下がる強風化部が存在すること、また、それらは孔口標高が高い箇所（約30m）に集中していること
    - 国土地理院の地図を見る限りにおいて、福島第一原子力発電所付近に地すべり地形と思われる場所が複数箇所存在すること、また、それら地形は8月23日の面談で東京電力が示した見解「高さが異なる段丘面」とは形状が異なること
    - 以上のことから、再度、各種調査等を踏まえ、福島第一原子力発電所南側の地形について見解を示すこと
  - （2）福島第一原子力発電所における地すべりの可能性
    - 第94回特定原子力施設監視・評価検討会資料3-2のDタンクエリアのボーリング柱状図等から、段丘堆積物直下にN値が大きく下がる場所が複数箇所存在すること
    - 過去の地震時にDタンクエリアのタンクが他のタンクエリアと異なり有意な滑動が生じていること
    - 以上のことから、（1）における調査結果等も考慮した上で、福島第一原子力発電所における地すべりの可能性について見解を示すこと
- 東京電力から、今後、各種調査・検討の上、見解を示す旨の回答があった。

6. 資料

- ・ 8月23日の面談資料（福島第一原子力発電所敷地南側の地すべり地形に関するご指摘について）
- ・ 第94回特定原子力施設監視・評価検討会資料3-2（福島県沖地震(2021/2/13)

- におけるタンク滑動事象を踏まえた追加調査・検討および対策方針)
- ・国土地理院の地図(東京電力福島第一原子力発電所付近のアナグリフ(グレー))